



TITLE:

日本一のクラゲ天国田辺湾(51) ヨ  
ウラククラゲ

AUTHOR(S):

久保田, 信

---

CITATION:

久保田, 信. 日本一のクラゲ天国田辺湾(51) ヨウラククラゲ. 紀伊民報  
2012

ISSUE DATE:

2012-02-02

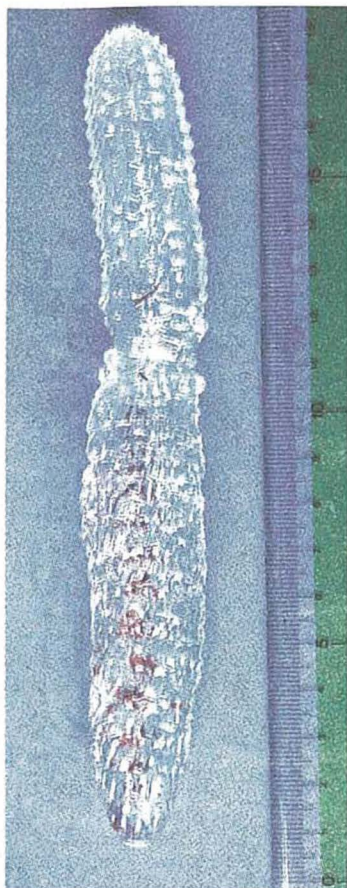
URL:

<http://hdl.handle.net/2433/180184>

RIGHT:

© 紀伊民報社

## ヨウラククラゲ 2



ばらばらになって発見されることが多いヨウラククラゲ

2004年1月中旬、冬季の北風がおおる波浪に運ばれて、京都大学瀬戸臨海実験所の北浜に大型のヨウラククラゲが複数打ち上がった。普段は海中深くにいるが、海面近くには上がってきたところ、折からの強風にあおられてこのような受難となったのだろう。最大で全長11センチもあった。

久保田 信

51



ヨウラククラゲの和名は、その群体性の見事なつくりから、仏像を飾る宝石類の装身具「瓔珞（ようらく）」に似ることに由来する。この写真は漂着したばかりのヨウラククラゲを撮影した。生きていて損傷がなく、パーツもそろっていたので、その後、丁寧に収容して実験所の水槽に入れたが遊泳はしなかった。

群体の先端には浮きの役割をする気泡体がただ1個あるのが大きな特徴である。また、個虫の分業化が高度に進んでいるのも特徴である。群体の前半分を占める泳鐘（えいし）部には、多数のクラゲ型の個虫が立体的に集まっている。その個虫たちが拍動して群体を推進させる。個虫の中空部に海水を吸い込み、ジェット噴射を繰り返す。この個虫には口もなく、触手もなく、餌はまったく捕獲できない。

泳鐘部に続く後半部には獲物を捕らえる個虫が連なっている。赤い触手の先端がコイルのように縮んでいるが、ここには無数の刺胞が装填（そうてん）されている。刺胞で射止めた餌は、その付け根にある口や胃を備える栄養個虫がのみ込み、消化吸収する。生死に関わるこの中心部を守るため、周りは「保護葉」と呼ばれる固いよういすっぱり覆われている。

ヨウラククラゲが所属する管クラゲ類は、ばらばらになってパーツでしか採れてこないことが多い。だから部分ごとの構造をよっぽど分かっていないと、種を同定できない。分類学者泣かせの分類群である。

（京都大学准教授）